

【3】宮地区ってこんなまちです

（宮地区の歴史）

宮地区は「歴史の宝庫」とよく言われ、その歴史は縄文時代^{さかのぼ}にまで遡ることが出来ます。先人達は、今の平原遺跡^{ひらばるいせき}や弥太郎遺跡^{やたろういせき}のあたりで狩りや魚とりの生活を営んでいました。

弥生時代^{ひよく}には、堀戸川と宮村川の合流地点（今の萩坂町のあたり）の肥沃な平地に住んで稲作をし、また波静かな大村湾の豊富な魚介類を捕ることもでき、豊かに暮らしていたものと思われます。また、太古^{たいこ}の屋敷跡^{やしきあと}やテボ神古墳^{がみこふん}、鬼塚古墳^{おにづかこふん}など多くの遺跡も残っています。

平安時代^{そのびしょう}には、彼杵庄^{みやぢら}と呼ばれる広大な荘園地帯に属しましたが、鎌倉時代^{みやぢらごりんのとう}には「宮村」を名乗る有力な武士が支配し、その権力を象徴する宮村五輪塔^{みやむろごりんとう}が残っています。

南北朝時代^{そのご}には、領地を守るために小地頭^{しょうじとう}が団結して彼杵一揆^{みやぢいつがい}を組織したこともあり、宇都宮大明神^{うつのみやだいみょうじん}はこの頃に祀られました。

室町時代^{むろまち}以降は大村藩に属し、江戸時代^{へいど}には平戸往還^{ひらどおうかん}が通りました。有形文化財「梅ヶ枝酒造」はこの時代に創業されています。

また、大戦末期に、宮村国民学校の児童が岩を掘りぬいて作った防空壕「無窮洞」もよく知られています。

宮地区は昭和33年8月1日に佐世保市と合併し、平成20年には合併50周年を迎えることとなります。

先人達によって営々と築きあげられた歴史を誇りとして、宮地区の皆さんが、明るく豊かなまちづくりのために協力し合う姿は、この地域のつながりの強さの表れであり、宮地区のさらなる発展につながるものです。

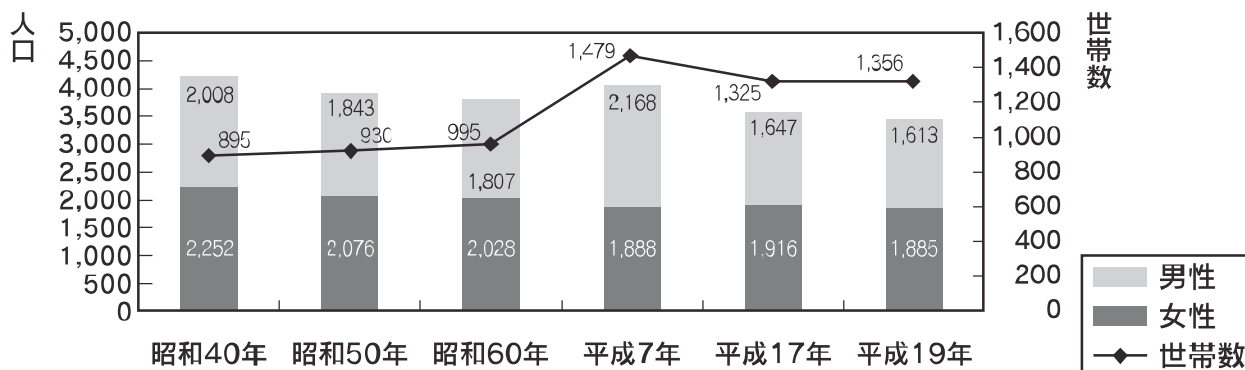
★宮地区って……どのあたりをいうの？

現在、宮地区と呼ばれる範囲は、次のとおりです。

町名	はえのさき 南風崎町、	じょうま 城間町、	はぎさか 萩坂町、	おくやま 奥山町、	みやづ 宮津町、	ながはら 長畑町、	せどう 瀬道町
----	----------------	--------------	--------------	--------------	-------------	--------------	------------

（宮地区の人口推移）

※いずれも10月1日時点の統計資料



（宇都宮神社）

（宮地区“わがまち自慢”）

宮地区には“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

八幡岳公園

八幡岳からの眺めは長崎百景の一つに選ばれています。

この公園は、宮地区で二番目に高い山である「白岳」の山頂近くにあります。

明治3年に八幡神社が祀られてから八幡岳とも呼ばれていますが、古くは二つ石岳と呼ばれており、江戸時代には二つの観音が祀られていました。

毎年4月に開催される八幡神社の例祭では、地域の方が集って宮地区の繁栄を祈念しています。



無窮洞

無窮洞は戦時中に掘られた防空壕で、「無窮」とは「きわまりなし」「限りなくつづき栄える」という意味です。

昭和18年頃から、宮村国民学校4年生以上の児童生徒が、ツルハシなどで少しずつ掘り進め、約2年かかって全校生徒600人が入れるような広い地下壕として完成しました。

一つの部屋は板張りの教室で、石の教卓やローソク立てがあります。もう一つの部屋は映画を映していたということです。また、炊事用のかまどやトイレもあり、防空壕の中で生活できるように作られていました。入り口は川の方に二つあり、山へ出る非常口は通風口を兼ねていたもので、子ども達の労力で完成させたとは思えないような立派なものです。

平成14年に復元され、現在では年間約15,000人の方が見学に訪れています。



梅ヶ枝酒造

梅ヶ枝酒造は、江戸時代（創業天明7年・1787年）からの建物が残る貴重な存在で、平成13年に国の登録有形文化財に指定され、また平成19年には、佐世保市の都市景観デザイン賞にも選ばれました。

豊かな自然と名水に恵まれた環境の中でつくられる酒は、福岡国税局鑑評会で6年連続優等賞受賞、また平成18年は全国地酒鑑評会で金賞を受賞するなど、品質は高く評価されています。

毎年2月上旬に開催される「蔵開き」は、多くの見学者で賑わいます。



南風崎駅

明治31年（1898年）に、早岐と大村間の鉄道の開通とともに南風崎駅ができました。

この駅名は、当時、南風崎港がよく知られていたことからつけられたそうです。

戦後、中国や南方の島々などから140万人もの引揚者が、苦労を重ねながら佐世保の港に着きました。針尾の浦頭で検疫を受け、針尾援護局に収容された後、この駅からふるさとに帰る汽車に乗り込みました。引揚者の方にとっては南風崎駅は忘れ去ることのできない場所でしょう。

